



Company profile

日本ストライカー株式会社 会社案内

さらなる医療の向上へ 今日も **Innovation** を加速していく

ストライカーは、米国で医師をしていたホーマー・ストライカー博士によって1946年に設立されました。ストライカー博士は、困っている患者さんの苦痛を和らげるために様々な工夫を凝らし、それが様々な『イノベーション』を生み、ついには医療機器メーカーを立ち上げるまでになりました。

イノベーションを目的としたイノベーションではなく、患者さんのために医療をより良くしようとした『結果としてのイノベーション』だったということが重要だと、私たちは思っています。

このようなイノベーションこそが、ストライカーの魂そのものであり、DNAです。私たち日本ストライカー社員一同、ストライカー博士の魂を感じながら、日本の医療をより良くしていくために、医療従事者の方々と共に『患者さんのためのイノベーション』を創出することに全力を尽くしています。

Mission

顧客と一体となって、
医療の向上を目指します。



代表取締役社長
佐伯 広幸

4つの事業領域で 医療の向上に貢献する

日本ストライカーはオーソペディックス（整形外科）、メディカル・手術用機器、ニューロテクノロジー、エマージェンシーケアの4つの事業領域において、幅広い診療科に対し、革新的な製品を提供しています。

オーソペディックス (整形外科)

日本ストライカーの事業において長い歴史と実績を有し、まさに骨格をなしているのがオーソペディックスの分野。関節置換手術、外傷、スポーツメディスン、脊椎関連手術等で使われるインプラントを幅広くカバーするとともに、ロボティクス技術を活用した新たなソリューションや革新的な技術を提供しています。

メディカル・手術用機器

手術室やICUで利用されるドリルやパワーツール、内視鏡関連製品、ナビゲーションシステム、ベッドや无影灯などの手術室装備品、さらに個人防護具などの単回使用製品まで、幅広いメディカル・手術用機器を提供します。手術や治療に必要な幅広いソリューションを届けています。

ニューロテクノロジー

脳および四肢末梢領域における血管内治療、開頭手術、脊椎関連手術のための革新的な製品を提供する分野。脳神経外科、放射線科、循環器内科、整形外科、耳鼻咽喉科など対象となる診療科は幅広く、人が生命活動を行う上で中枢をなす脳や神経領域において、医師のニーズに対応した製品と専門的なサービスを届けています。

エマージェンシーケア

1秒を争う緊急の場面において、救命活動や救急医療チームを強力にサポート。「もしも」に備える自動体外式除細動器（AED）や、自動心臓マッサージシステム、救急搬送用ストレッチャーなど、救急処置のための医療機器を扱っています。救急の場面に応じた、多様な機能を搭載した製品を提供しています。

絶え間ない **Innovation** で 医療の向上に貢献 そこに私たちの存在価値があります



「今ある道具がうまく使えないならば、使えるようにしなさい。
それでもだめならば、使える道具をつくればよいのです。」

“If your tools don't work, make them work.
If you can't make them work, make some that do.”

ホーマー・ストライカー博士

それは一人の整形外科医の Innovation から始まった

1930年代、医療器具が患者の立場に
たったものでないことを実感してい
た一人の医師がいました。それが米
国ミシガン州カラマズー出身の整形
外科医、ホーマー・ストライカー博士
です。ストライカー博士は、昼間は
自ら患者の治療にあたり、夜は独自
の医療器具の開発に取り組みました。
背部手術の直後に思うように動けな
い患者さんが楽に体の向きを変えら
れるよう、回転するベッド「Wedge
Turning Frame」を1938年に考案。
その後、自ら開発した医療器具を製
造する会社を設立し、それがストライ
カーの始まりです。

自動心臓マッサージシステム



パーソナル・プロテクション・
システム



脛骨骨折手術用器械

動脈瘤塞栓用プラチナコイル

超音波手術器

人工股関節システム

これからも病気や怪我と戦う人々のために

ストライカー博士の願いは、自らのInnovationによって、病気や怪我と戦う
人々が1日も早く健康を取り戻し、活動的で充実した生活を送ることができる
ようサポートすること。医療の向上を目指すミッションのもと、私たちは幅
広い事業領域で医療従事者の皆さんや患者さんに寄り添った製品を提供して
きました。Innovationは私たちのDNAとして、今も変わらず受け継がれて
います。



廃液・排煙
マネジメントシステム

脊椎インプラント



InnovationのDNAを受け継ぎ 誕生した製品

ロボティックアームを用いた 手術支援装置

整形外科領域においてロボティック技術を活用した新たなソリューションを提供することにより、人工股関節や人工膝関節の手術を行う医師の執刀をサポートします。



内視鏡カメラシステム

4K技術で術野を鮮明かつリアルタイムに映し出し、医師に充実した内視鏡画像情報をもたらします。患部の状況に応じて自動で光をコントロールする機能を搭載し、カメラヘッドの操作性にも配慮しています。



電動式救急搬送ストレッチャー

ボタンひとつで昇降し、容易に患者さんを搬送することができる電動ストレッチャー。救急車に搭載することで、ストレッチャーの上げ下げなどによる身体的負担を軽減し、多様な救急救命士の活躍を後押しします。



数字で見るストライカー

これまでのストライカーの成長を支えてきた Innovation。
数字に裏付けられた 40期連続成長の軌跡が、その証です。



149億ドル
の売上 (2019年)



8,883
の特許を保有

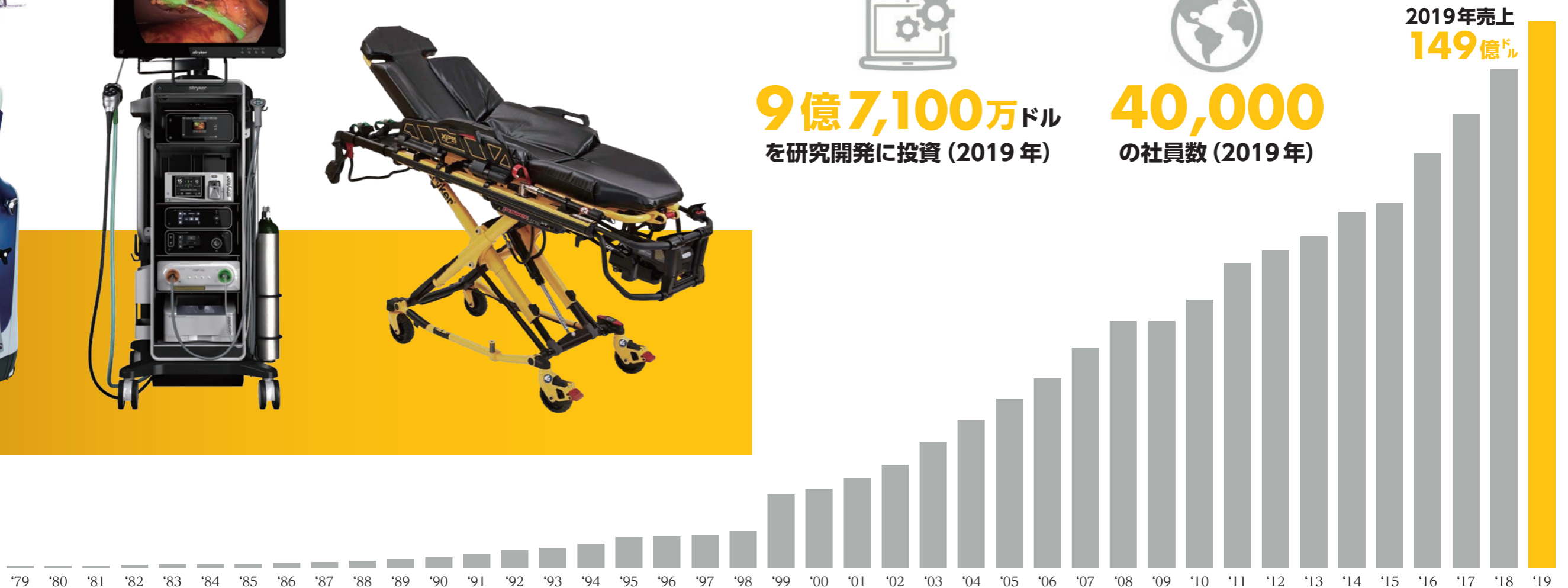


9億7,100万ドル
を研究開発に投資 (2019年)



40,000
の社員数 (2019年)

2019年売上
149億ドル



一人ひとりがリーダーシップを発揮できる 働きがいのある職場へ

日本ストライカーにとって Innovation の源泉となるのは、社員一人ひとりの情熱です。
社員がそれぞれの情熱に突き動かされ、活躍し、日本一働きがいのある職場を創造すること。
これが私たちの経営ビジョンです。

次世代のリーダーを育成する「Top Gun」と「Young Lions」

日本ストライカーでは将来の経営人材を輩出するための「Top Gun」研修や、マネージャー候補を育成するための「Young Lion」研修など、独自の教育プログラムを制定。
いずれも社員の意志を尊重し、立候補によって受講できる仕組みです。



ダイバーシティ & インクルージョンに向けた取り組み

女性の活躍に光をあてたストライカーズ・ウィメンズ・ネットワーク

ストライカーでは、多種多様な人材の活躍が企業の成功に不可欠であると考えます。社員のユニークな視点やアイデアを重視しながら、共に成長することを望んでいます。この精神から生まれた取り組みのひとつが、グローバル全体で取り組む「ストライカーズ・ウィメンズ・ネットワーク」(以下SWN)です。SWNは、ネットワーキングや教育プログラムを通じて、優秀な女性社員の獲得、人材育成、定着を推進し、社員一人ひとりが活躍する機会を提議する社員ネットワークで、日本でも積極的に活動を行っています。

SWN
Advancing women together

「働きがいのある会社」ランキングの ベストカンパニーに選出

継続的な成長機会の提供や、社員の提案を基にしたフレキシブルな働き方の実践により、日本ストライカーは、「Great Place to Work® Institute Japan」が実施した2020年版『働きがいのある会社』ランキングの従業員100-999人部門において、3年連続でベストカンパニーに選出されています。



豊富なトレーニングを通して社員の成長を促進

入社後は日本ストライカーの文化に慣れ、必要な知識を短期間で習得し、速やかに現場で活躍できるよう、複数の部署が協働して新入社員研修を企画・運営しています。また社員が最も成長できるのは実際の仕事の場面(On-The-Job)であると考え、社員に豊富なトレーニング機会を提供。各社員がそれぞれの役割を現場で全うすることで、チーム全体の成長の原動力となることを目指しています。



人材育成をビジネスの持続的発展に

日本ストライカーでの人材育成プログラムでは、社員の継続的な成長を「知識・意識・施行・経験」の側面から捉え、それがビジネスの持続的発展に貢献できるように設計。さらに、自己成長に意欲がある社員には多様な研修機会を提供するなど、自主性も大切にしています。社員同士が互いに刺激を与え合い、切磋琢磨できる環境を整備しています。



人のために 地球のために 私たちの企業責任

「オペレーション・スマイル」の活動を支援

口唇裂や口蓋裂の障がいを持つ子どもたちとその家族に笑顔を一。形成外科手術を無償で提供する「オペレーション・スマイル」の活動に賛同し、これまで20年余りにわたり、ストライカー製品の提供や寄附金の拠出、さらに各国の医療従事者への技術支援等を行っています。



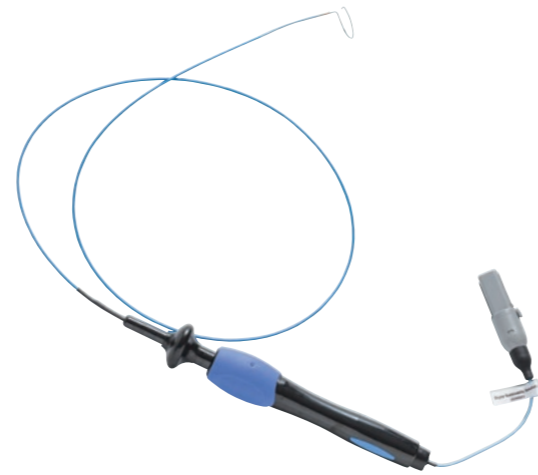
「ベトナム エクスチェンジ プログラム」への参加

ベトナム・ホーチミン市にある ThiNghe 孤児院では、脳性麻痺、ダウン症、水頭症といった障がいを持つ300人以上の子どもたちが暮らしています。日本を含む各国のストライカー社員が現地へ赴き、食事のサポートや子供たちとの遊びなどボランティアワークに従事。また継続的な孤児院運営のため、資金面でも支援しています。



サステナブルな医療のための大きな一歩 単回使用医療機器の再製造を実現

単回使用機器の再製造とは、使用済みの単回使用医療機器を、医療機器製造販売業者が収集、検査、洗浄、滅菌等の処理を適切に行うことで、再び使用できるように製造・販売するもので、欧米では2000年代はじめから事業化されています。日本ストライカーでは、2020年4月から日本で初めて再製造単回使用医療機器 (R-SUD) の提供を開始。R-SUDは、安全性を確保しながら、医療廃棄物の削減による環境保全への貢献や、医療資源の有効活用による経済効果が期待されており、その普及を通じてサステナブルな医療の提供に貢献していきます。



日本ストライカー

社名：日本ストライカー株式会社
本社：東京都文京区後楽 2-6-1 飯田橋ファーストタワー
事業所：大阪事業所（大阪府大阪市西区）
西日本物流センター（大阪府藤井寺市）
東日本物流センター（東京都大田区）
創業：1913年
代表取締役社長：佐伯 広幸
資本金：9,530万円
従業員数：約900名（グループ全体 2019年12月末）
事業内容：医療機器の製造販売
関連会社：ストライカー・メドテック株式会社



Stryker

社名：ストライカーコーポレーション
Stryker Corporation
本社所在地：アメリカ合衆国
ミシガン州カラマズー
設立：1946年
社員数：約40,000名（2019年）
会長兼CEO：ケビン・ロボ
売上高：149億ドル（2019年）



松本器械店創業

日本ストライカーの前身となる松本器械店が創業

株式会社松本医科器械製作所設立

株式会社松本医科器械製作所（後に株式会社松本医科器械に社名変更）が設立される

ストライカーの日本現地法人として 日本ストライカー株式会社を設立

株式会社松本医科器械が 日本ストライカー株式会社と合併

ストライカー・メドテック 株式会社設立

株式会社ムトウより超音波手術装置ソノペット事業を統合

ニューロバスキュラー/ ペリフェラル事業を統合

ボストン・サイエンティフィックジャパン株式会社から虚血性および出血性脳卒中、末梢血管に対する治療製品・サービスを提供するニューロバスキュラー/ペリフェラル事業を統合

フィジオコントロール ジャパン株式会社を統合

体外式除細動器や自動心臓マッサージシステムなどの救急医療製品やサービスを提供するフィジオコントロールジャパン株式会社と経営統合

1913 1946 1998 1999 2010 2011 2018

1938 1941 1946 1964 1979 1997 1998 2013 2017 2018

整形外科市場のグローバルリーダーであった
Howmedica 社と経営統合、
翌年には企業規模が2倍に拡大

ニューヨーク証券取引所に上場

新規株式公開。Osteonics Corp 社を統合し、
整形外科インプラント市場に参入

社名を Stryker Corporation に変更

ストライカー博士が Orthopedic Frame Company を設立

ストライカー博士、ミシガン州カラマズーで開業

回転するベッド「Wedge Turning Frame」を考案

脊椎固定治療に使われる
インプラントメーカー
K2M Group Holdings 社
を経営統合

内視鏡分野での蛍光イメージング
技術を拡大するため
NOVADAQ 社を経営統合

ロボティックアームによる
整形外科手術支援技術を有する
Mako Surgical Corp. 社を経営統合



日本ストライカー株式会社

112-0004 東京都文京区後楽 2-6-1 飯田橋ファーストタワー
www.stryker.com/jp